

## 愛顔でつなぐ“学校・家庭・地域”の集い 教育長あいさつ

令和4年9月29日（木）  
生涯学習センター 県民小劇場

本日、2年ぶりに皆様をお迎えして、10回目の節目となる「愛顔でつなぐ“学校・家庭・地域”の集い」を開催できますことを心からお礼申し上げます。

また、皆様におかれましては、日頃より県内各地において、それぞれのお立場から子どもたちの健やかな成長のために御尽力をいただくとともに、コロナ禍において、子どもたちが安心して充実した日々を送れるよう温かく見守っていただいております、心から感謝申し上げます。

さて、世界でも類を見ないスピードで少子高齢化、人口減少が進み、学校教育制度の根幹にも影響を及ぼしている中、国の中央教育審議会は、答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」において、「子供たちの教育は、学校・家庭・地域がそれぞれの役割と責任を果たすとともに、相互に連携・協働してこそ効果が上がるものであり、地域全体で子供たちの成長を支えていく環境を整え、社会とつながる協働的な学びを実現することが必要である」と提言されており、学校・家庭・地域の連携・協働による取組みが、今後益々重要性を増すと考えております。

県におきましても、教育基本方針の第一に「社会総がかりで取り組む教育の推進」を掲げ、学校、家庭、地域、企業等の多様な主体が連携・協働して「地域学校協働活動」や「えひめ未来塾」などに取り組んでおり、地域に愛され、信頼される学校づくりに努めるとともに、未来を担う子どもたちの健やかな成長を支援しているところです。

この「集い」は、教育という枠組みを越えて、子どもたちの成長に関わる、保健・福祉、子育て支援、警察、企業等の方々に御参加いただき、次代を担う子どもたちの豊かな教育環境の構築に努めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働した取組みの一層の推進を図り、地域の大人一人一人の力を、全ての子どもたちの愛顔のために幅広く生かしていただく契機となることを願って開催するものであります。

本日は、10回目の開催を記念してのシンポジウムと、5つの個別テーマによる分科会での事例研究を通して、研修や情報交換を行うこととしておりますので、それぞれの立場や経験に基づいた幅広い視点から活発な御協議をいただきますようお願いいたします。

結びに、本日御参会の皆様のお健勝、御活躍を心からお祈り申し上げます、主催者の御挨拶といたします。